

「彩の国さいたま」(リーフレット電子版) 第13号の令和3年度支部企画行事報告(1)に続いての報告です。(3)支部女性の集い(11月14日)*3の行事です。女性の集い(「澁澤栄一の原点」深谷市をめぐって)は、令和3(2021)年11月14日(日)の「県民の日」の午前10時にJR高崎線の深谷駅に集合し、小型貸切バスを利用して、午後3時30分JR岡部駅解散で行われました(所要時間5時間30分)。

集いの見学は、深谷市内に点在する「誠之堂・清風亭見学(写真・2)」「屋敷食事処『楓(かえで)』(郷土料理『煮ぼうとう』を食す)」「旧澁澤邸中の家(澁澤栄一一家)見学(写真・3)」「澁澤栄一記念館見学」「道の駅おかべ」をめぐるコース(写真・1)を、橋北克子副支部長

令和3年度
支部企画行事の報告(2) (速報版)

東洋大学校友会埼玉県東部支部会報《リーフレット電子版》

彩の国さいたま 第14号

作成/2022年2月10日 (一社)東洋大学校友会 埼玉県東部支部 広報部

この「彩の国さいたま」(リーフレット電子版)は、校友会埼玉県東部支部の最新の活動状況、企画案内、会員の動向などの情報を、支部会員の皆様に年数回、不定期でお届けするものです。速報内容は、支部役員および会員の皆様から頂戴した情報を写真とともにまとめています。なお、リーフレット版は、画像電子版として作成していますので、東洋大学校友会HPの支部ブログにも掲載することを基本にしています。支部のZINE登録会員の皆様にも配信します。奮ってお読みいただきたく存じます。

支部広報担当(副支部長) 黒井 登起雄

【支部女性の集い】
「澁澤栄一の原点」深谷をめぐって」
副支部長 & 女性部長 橋北 克子
(昭和55年商学)

昨年コロナ感染拡大の影響を受け中止になりましたが、校友女性の集いとして「澁澤栄一の原点」深谷市をめぐって」を秋晴れの下11月14日に無事に開催することができました。初めてマイクロバスを貸し切り女性7名男性8名総勢15名に参加して頂きました。令和3年度ZINE

(兼女性部長)と小菅喜美子副支部長によつて計画されました。

*3 支部ブログ(ZINE)年11月30日掲載...令和3年の楽しい「支部女性の集い」(澁澤栄一の原点)深谷をめぐって)を開催しました!
文責・写真編集:黒井登起雄
(支部広報担当&副支部長)

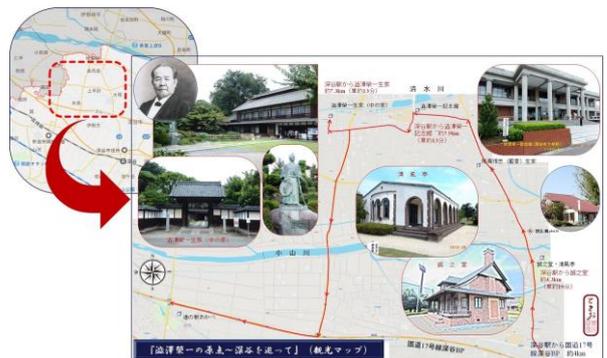


写真-1 「支部女性の集い」の見学マップ(澁澤栄一一家など)
(実際のコースとは、若干異なります)



写真-2 支部女性の集い(清風亭を背景にして)



写真-3 支部女性の集い(澁澤栄一一家前にて)

の大河ドラマ「青天に衝け」や「プラタモリ」「鶴瓶の家族に乾杯」でも既に放映されており、私自身は深谷市には行ったことがなかったこともあり、ワクワク楽しみにしてました。上尾から高崎線で深谷へ向かう途中の籠原駅でなんと車両編成があり、やっと深谷駅に到着。まずは東京駅と同じ煉瓦造りの堂々たる駅舎に圧倒され、始めに第一銀行の保養所「誠之堂・清風亭」を見学。誠之堂の壁面の煉瓦は本来ならば廃棄処理されるはずの黒くなった煉瓦、焼けず白くなった煉瓦を巧みにバランス良く配置して模様を形作ってました。遠方に煉瓦工場があり、現在は改修途中で一部のみの見学になっているようです。

う)、寒い冬場の美味しさは格別だそうです。周囲は秩父、群馬の山に囲まれ、深谷ネギ畑、ブロッコリー畑が当たり一面植えられてました。かつて利根川の氾濫が頻繁に地質が肥沃で粘土質で固く、ネギの栽培に適してたそうなんです。畝がとて高くもられ溝も深く簡単には抜けないので収穫の農作業には重労働だと思えました。

次は澁澤栄一一家の「中の家」。母屋の左手の一階建て十畳は帰省する栄一のために建てられ、当時の農家には珍しいお手洗いが家の中にあり(ガイドさんが熱く語ってました)この部屋では80代の栄一のアンドロイドが和服姿でお出迎えて下さいました。次の「澁澤栄一記念

館」では70代の栄一のアンドロイドの「道徳経済の合一説」の基調講演を聞き、身振り手振りもあり実際に目の前で聞いているようでした。小柄な方で、いかにも頭脳明晰の相貌で近代経済の父と言われる方だと思えました。「青天に衝

郷土の偉人に想いを馳せて

～深谷市をめぐって～

副支部長 小菅 喜美子 (昭和49年社会)

令和3 (2021) 年11月14日、埼玉県誕生百五〇周年・埼玉県民の日。埼玉の3偉人のひとり、「澁澤榮一翁」生誕の地、深谷市を訪れました。今回は、「東洋大学校友会埼玉県支部 女性の集い」の令和3年度事業計画により開催されました。昨年度から一年越しに待ちに待った期待の行事です。この日の3日前、11月11日は「澁澤榮一翁」没後90年という節目の年でもあり、深谷市では、故人の功績や人柄を偲び盛大に献花式が行われたようです。今日、日本の繁栄の礎を築きあげた数々の偉人は、説明するまでもなく現在にもあらゆる方面に色濃く反映されています。また、人生訓となる数々の名言も残っています。そこで、人生百年時代と言われる昨今、私は70歳という人生の節目を迎えますので、私に向けて今後の人生の道標となるような名言を探してみました。

【職業人としての私に向けて・(一)】

○心を穏やかにさせるには思いやりを持つことが大事である。一切の私心をはさまずに物事にあたり、人に接するならば、心は穏やかに余裕を持つことができるのだ。

○お前は自分の立場に忠実なのは結構だが、同時に怒、つまり相手の立場も理解してやるという広い気持ちを持たねば、世の中に円満に処していくことはできない。

【70歳の私に向けて】

○四十、五十は羨まれ小僧、六十、七十は働き盛り、九十は小僧になって迎えが来たら百まで待って追い返せ。

(2021年11月19日(金)メール受信)

写真4 (No.10)

参加しての感想
支部理事 青木章次 (昭和50年経営)

私は校友会のイベントで深谷へ来たのは今回で三度目です。「澁澤榮一」という人は埼玉県から世界に出たすばらしい経済人であり、多方面に亘って起業した人です。「澁澤榮一」は論語には造詣が深かったと思います。「澁澤榮一」がヨーロッパでの見聞したことによる知識を自分のものにしたに違いない。そして、「道徳経済同一説」を唱え、「金儲けする」と「道徳」とが同一でなければならぬと考えたのであろう。私は、「澁澤榮一」のことを語ることは非常に哀しく、語る資格がないと感じました。

写真4 (No.6)

澁澤榮一の原点～深谷をめぐって

辻村 史子 (平成12年院修教育)

深谷駅に着き、改札を出て振り返ると、平成8 (1996) 年改修された東京駅を模した赤レンガ造りの駅舎が、線路をまたぐ橋の上に建てられていた。そこには、(女性校友の集い)を企画して下さった、女性部長さんと副支部長さんが参加者を待っていて下さいました。

澁澤榮一は、天保11 (1840) 年、2月13日、武蔵国榛沢郡血洗島村(はんざわぐんちあらいまむら、現埼玉県深谷市)の農家に生まれ、家業は藍玉作りと養蚕をして活躍した実業家で、五〇〇近い企業の設立・育成に関わり、六〇〇の社会公共事業にも尽力し東京商工会議所のあげたリストによれば、澁沢が設立に関った五〇〇近い会社のうち、一八〇社余りが今も存続していると言われています。

印象深いのは人間型ロボット (Android) で、澁沢が70歳頃大正12 (1923) 年、洋装で論語の精神を重んじた「道徳経済合一主義」・道徳と経済は本質的に一致する。2024年からは新一万円紙幣の肖像になることになっては大変驚いているなど、約8分間、音声が生かされ、手ぶり、身ぶり、まばたきしながらの講演は、とても丁寧に製作されていると思えました。

世田谷区瀬田から移築された「誠之堂(せいしどう)」「清風亭(せいふうてい)」の国指定重要文化財等の見学ができて有意義な一日でした。

(2021年12月10日(金)メール受信)

写真4 (No.14)

け」で吉沢亮が「〇〇だんべ、〇〇かい」と埼玉の言葉を話すとやはり埼玉県人だと親近感を感じます。岡部の道の駅でそれぞれ深谷ねぎや名物を買求め、一年間待った甲斐があったと感じました。

～ご案内状を出した頃はコロナ感染が拡大



図-1 東洋大学校歌 (楽譜付き)

集いに参加しての感想
副支部長 & 広報担当 黒井登起雄 (昭和46年院修土木)

新型コロナウイルス感染症の非常事態宣言解除、ワクチン接種の進展があるものの、まだまだ感染予防のマスク着用を強いられる状況下でしたが、楽しく、有意義な時間となりました。深谷市の隣町の熊谷市に住んでいる私ですが、澁澤榮一翁の生家および数多くの業績史跡を時折訪ねています。参加をしたいと思います。来年度の企画を楽しみにしています。更に、明治年代の旧煉瓦工場跡のホフマン輪窯の耐震補強工事でも平成6 (2025) 年に終わる見込みです。JR深谷駅からの煉瓦工場専用線跡の遊歩道を辿りながらこれらも再び見たいものです。

(支部ブログ 2021.11.30 に掲載済み)

写真4 (No.3)



大し、参加して頂けるか、開催できると、とても心配していましたが、不思議と10月には劇的に感染が減少したことが幸いでした。地元の柴崎さんや黒井さんには、ガイドさんより詳しく勉強され説明して頂きました。また小菅さんにもたくさん資料を提供して頂き感謝申し上げます。また機会があれば行ってみたいと思います。

(2021年12月7日(火)メール受信)

写真4 (No.9)

《次年度の開催予定のお知らせ》
「支部女性の集い」は、令和4年度も、左記のよう
に実施を計画しています。
場所：国指定史跡「黒浜貝塚」(蓮田市)
期日：令和4 (2022) 年10月頃(日) 予定
詳細は、橋北克子副支部長(兼女性部長)の下において計画中で、6月頃に校友会HPの支部ブログへの掲載を予定しています。



写真-4 支部女性の集い/澁澤榮一記にて念館にて